

2024_0416「飛んで巣箱に戻るムササビの母親（動画）」日々の理科 3540号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

ムササビはもちろん哺乳類ですが、その最大の特徴は「飛ぶ」ことです。飛ぶといっても、多くの鳥類のように羽ばたいて飛び続けたり、トビ（トンビ）のように、上昇気流を利用して飛ぶこともできません。前あしと後ろあし（「前足・後ろ足」と書くのは誤り）の間に「飛膜（ひまく）」と呼ばれる薄い膜状の筋肉があり、それを広げて「滑空」するのです。

滑空の場合、スタート点からゴール点に飛ぶ時、必ず高度が落ちます。従ってムササビは木の幹を登って、高度を稼いでから飛ぶ、また幹を登る・・・の繰り返しです。一生のほとんどを樹上で生活し、地面に降りることは通常はありません。木の幹を登ったり、滑空後に確実に幹にしがみついたために、前あし、後ろあしとも、爪が発達しています。

子が少しずつ成長してきたので、夜間は外にいる時間も回数も増えてきました。巣に戻る時の滑空も一晩に何度も観察できるようになりました。面白いのは、着地（正確には着樹）の時は、体を縦に姿勢を変えていることです。空気抵抗を増やして「ブレーキ」をかけているのでしょう。今回の動画にもその様子がほんの一瞬映っています。

(2024年4月中旬／北軽井沢／遠隔観測)

